



古事記物語絵



古事記物語絵

①天照大御神(アマテラスオオミカミ)

伊邪那岐が黄泉の国から戻った後、
左目を洗った際現れた神
高天の原を支配する
〈出典:「国生み」天照大御神・他〉

②月読命(ツクヨミノミコト)

伊邪那岐が黄泉の国から戻った後、
右目を洗った際現れた神
夜の国の支配する
〈出典:「国生み」天照大御神〉

③天宇受売命(アメノウズメノミコト)

④猿田彦神(サルタビコノカミ)

天宇受売命は天照大御神が天の岩屋戸に
隠れてしまった際岩屋戸の外で踊り、
天照大御神が外に出るきっかけを作った
猿田彦神は邇邇芸命が天下りする際に登場
邇邇芸命同行する天宇受売命に
道案内するため迎えに来たことを告げる
〈出典:「国生み」天の岩屋戸
「天孫降臨」天孫邇邇芸命〉

⑤天手力男命(アメノタチカラオノミコト)

天の岩屋戸の入り口の脇に隠れ、
引きこもってしまった天照大御神が外の様子を
除いた際に手を取り外へ引き出した神
〈出典:「国生み」天の岩屋戸〉

⑥大気津比売神(オオケツヒメノカミ)

須佐之男命が暴れた罰として追放された際
料理をふるまうも、材料を鼻・口・尻から
出しているところを見られてしまい殺されてしまう
殺された体から五穀・蚕などが生まれる
〈出典:「国生み」五穀の起源〉

⑦醜女(しこめ)

黄泉の国の伊邪那美に会いに行った伊邪那岐が
恐ろしい姿の伊邪那美を見て逃げる際、
伊邪那美の命令で追いかけてきた醜い女たち
〈出典:「国生み」黄泉の国〉

⑧火之迦具土神(ヒノカグツチノカミ)

伊邪那美が最後に生んだ神
この際女陰を焼かれて亡くなってしまふ
伊邪那岐は怒り、火之迦具土神の首を切ってしまう
流した血や死体からも様々な神が生まれる
〈出典:「国生み」大八島の国〉

⑨建御雷神(タケミカヅチノカミ)

⑩建御名方神(タケミナカタ)

建御雷神は天照大御神によって葦原中国に遣わされた
波の上に十握の剣を逆さに立ててあぐらをかいて座り
大国主神に国を譲るように話し合う
大国主神の息子の建御名方神は力比で話を
付けようとするが敗北し、国譲りが成立した
〈出典:「天孫降臨」建御雷神〉

⑪正勝吾勝勝速日天忍穗耳命

(マサカツアカツカチハヤヒアメノオシホミニノミコト)

天照大御神と須佐之男命の誓約の際
須佐之男命の噛んだ勾玉から生まれ天照大御神の子と
なった五柱の神の長男
葦原中国に天降ったがひどく騒いでいるところと帰ってきた
〈出典:「国生み」天の安河
「天孫降臨」天菩比と天若日子〉

⑫雉の鳴女(きじのなきめ)

天若日子が帰ってこないため天照大御神と
高御産巢日神に伝言を頼まれ天若日子の家の
楓の上で言葉を伝えた
天佐具売の進言で天若日子に矢で射殺されてしまふ
〈出典:「天孫降臨」天菩比と天若日子〉

⑬天菩比(アメノホヒ)

⑭天若日子(アメノワカヒコ)

天菩比は葦原中国の荒ぶる神たちを征服するために
派遣されるが三年経っても帰ってこないため
今度は天若日子が葦原中国に派遣される
結局、八年帰ってこず雉の鳴女を射った矢が
高木神(高御産巢日神)の元に届き
「命令に背いてなければ矢は当たらない」と
投げ返すと、その矢は天若日子の胸に当たり死んでしまふ
〈出典:「天孫降臨」天菩比と天若日子〉

⑮桃三つと人の子

伊邪那岐が黄泉の軍から逃げる際に投げた三つの桃の呪力によって黄泉の国の者は去っていったその後伊邪那岐は伊邪那美に離婚を言い渡す伊邪那美は「一日に人間千人絞め殺す」と宣言し伊邪那岐は「一日に人間千五百人産ませる」と返答
〈出典:「国生み」黄泉の国〉

⑯建速須佐之男命(タケハヤスサノオノミコト)

伊邪那岐が黄泉の国から戻った後、鼻を洗った際現れた神海原の支配を任されるも母恋しさに統治せず荒れ、天照大御神と誓約をたてるも大暴れし、高天の原を追放される出雲の国に降りると八俣の大蛇の生贄となった櫛名田比売に会い、大蛇を十握の剣でばらばらに切り、櫛名田比売を妻とした
〈出典:「国生み」天照大御神・須佐之男命・高天の原・天の安河・八俣の大蛇・他〉

⑰櫛名田比売(クシナダヒメ)

⑱八俣の大蛇(ヤマタノオロチ)

父は足名椎、母は手名椎
八人姉妹の末の娘
八俣の大蛇は
「目はほおずきのように赤く、一つの胴体に八つの頭、八つの尾。その身に苔と檜と杉が生え、長さは八つの谷、八つの峰に渡るほどで、その腹はいつも血でただれている」
足名椎、手名椎夫婦は
毎年一人ずつ娘を八俣の大蛇の生贄にされていた
退治後中の尾を切った際、十握の剣が折れその尾を割ってみると中には都牟刈の太刀(草薙の大刀)があり、須佐之男命は天照大御神に献上した。
〈出典:「国生み」八俣の大蛇〉

⑲宗像三女神(むなかたさんじょしん)

天照大御神と須佐之男命が天の安河を挟んで行った誓約の際、天照大御神が剣を噛み砕き霧状の息吹から生まれ須佐之男命の子とされた三柱の女神
多紀理 売命(奥津嶋比売命)(タキリビメノミコト(オキツシマヒメノミコト))
市寸嶋比売命(狭依 売命)(イチキシマヒメノミコト(サヨリビメノミコト))
多岐都比売命(タギツヒメノミコト)
〈出典:「国生み」天の安河〉

⑳大国主神(オオクニヌシノカミ)または

大穴牟遲神(オオアナムチノカミ)または葦原色許男命(アシハラシコオノミコト)八千矛神(ヤチホコノカミ)など
多くの兄弟が八上比売と結婚するため因幡の国に向かう際、荷物持ちの従者としてついていく。サメを騙し、皮を剥がれた上、兄たちに騙され苦しんでいるウサギの神を助けウサギの神に八上比売と結婚できると告げられる
〈出典:「国生み」因幡の素戔・他〉

㉑須勢理 売(スセリビメ)

須佐之男命の娘
八上比売に結婚を断られた大国主神の兄たちは大国主神を殺害。大国主神の母に大国主神は蘇生させられるが兄たちはまた命を狙ってくるため大国主神が須佐之男命の住む根之堅洲国に逃げた際に出会い結婚
須佐之男命の無理難題を須勢理 売の機転でこなし須佐之男命から二人で逃げてみせた後正妻となる
〈出典:「国生み」葦原色許男命〉

㉒八上比売(ヤガミヒメ)

㉓木俣の神(御井の神)(キマタノカミ(ミイノカミ))

大国主神と結婚し、子もいたが正妻の須勢理 売を恐れてその子を木の俣に刺し挟んで国に帰っていく
〈出典:「国生み」葦原色許男命〉

㉔少名 古那(スクナビコナ)

㉕神産巢日神(カムムスヒノカミ)

少名 古那は大国主神が出雲の美保の岬にいる際に出会う鵜鳥の皮を剥いだ着物を着ている神
神産巢日神の子で大国主神と葦原中国を造り固める
〈出典:「国生み」少名 古那〉

㉖沼河比売(ヌナカワヒメ)

大国主神は越の国の沼河比売の家の前で歌を歌い求婚翌日の夜に結婚
〈出典:「国生み」沼河比売〉

㉗三輪山の頂の神

㉘大年神(オオトシノカミ)

少名 古那がさった後、海からやってきて国造りのために祭られた神。その後須佐之男命の子の大年神が多くの神を生み出す
〈出典:「国生み」少名 古那〉

⑲天邇岐志国邇岐志天津日高日子番能邇邇芸命
(アメニシクニニキシアマツヒコヒコホノニニギノミコト)

正勝吾勝速日天忍穗耳命の息子
葦原中国を治めるため高千穂の峰に天降りした
その際、八尺の勾玉、八尺の鏡、草なぎの剣を
天照大御神から贈られる
〈出典:「天孫降臨」天孫邇邇芸命〉

⑳石長比売(イワナガヒメ)

㉑木花之佐久夜 売(コノハナサクヤビメ)

邇邇芸命が笠沙の峰で出会った大山津見神の娘達
出会ったのは妹の神阿多都比売こと木花之佐久夜 売
だけだったが、結婚を申し込んだところ姉妹で嫁いできた
大山津見神は「天つ神の生命が岩のごとく永遠で
丈夫であるように。また、木の花のごとく栄あれ」と
神に約束し嫁がせたのに石長比売だけ返されてしまう
そのため生命は木の花のように永くなくなった
また、木花之佐久夜 売が一夜の契りだけで妊娠した
ことを邇邇芸命は国つ神の子に違いないと疑うため
木花之佐久夜 売は御殿を造り、天つ国の御子であれば
無事生まれるだろうと御殿に火をつけて三人の子を産んだ
〈出典:「天孫降臨」木花之佐久夜 売〉

㉒海佐知 古(火照命)(ウミサチビコ(ホデリのミコト))

㉓山佐知 古(火遠理命)(ヤマサチビコ(ホオリノミコト))

または虚空津日高(ソラツヒコ)

木花之佐久夜 売から生まれた兄弟
兄の火照命は海の幸をとり弟の火遠理命は山の幸をとる
火遠理命は互いの獲物をとる道具の交換を申し出るが
交換後、兄の釣針を海の中に失くしてしまう
兄に釣針の返却を求められ、許しも得られず困っていたとこ
ろ塩椎神の助言で綿津見神の宮殿に向かう
〈出典:「天孫降臨」海佐知と山佐知〉

㉔豊玉 売(トヨタマビメ)

㉕綿津見神(ワタツミノカミ)

海の神である綿津見神の娘である豊玉 売は宮殿にやって
きた火遠理命に一目ぼれして結婚し、三年間宮殿で暮らした
豊玉 売は火照命をこらしめ、兄は弟への服従を誓う
出産の際の鮫の姿を火遠理命にのぞき見られた豊玉 売は
恥じて綿津見の国へ行く坂を塞ぎ帰ってしまう
〈出典:「天孫降臨」豊玉 売・火照命の服従・鶴葦草葺不合命〉

㉖神武天皇または

神倭伊波礼 古命(カムヤマトイワレビコノミコト)

㉗八咫鳥(ヤタガラス)

大和を平定した第一代天皇
神武天皇が熊野から大和に進入し山中で道に迷った時、
高木大神によって八咫鳥がつかわされ、天皇の軍を導き
山中を抜け出させた
〈出典:「異民族との混血」神武東征・八咫鳥〉

㉘倭建命(ヤマトタケルノミコト)または

小碓命(オウスノミコト)

伝承上の英雄
西方の熊襲征伐後東方蝦夷平定に向かう際、草薙の剣を
与えられる
伊勢の国の能褒野で亡くなり、その霊は白鳥の姿となった
〈出典:「国の発展」倭建命・東国征伐・美夜受比売・飛翔する白鳥〉

㉙伊邪那岐と伊邪那美のはじめの子

㉚淡島(アワシマ)

伊邪那岐と伊邪那美のはじめに生まれた子は、くずの子と
して、葦の船に入れて流してしまう。
次に生んだ淡島も子の仲間には入れられない
〈出典:「国生み」伊邪那岐命〉

㉛伊邪那岐命(イザナギノミコト)

㉜伊邪那美命(イザナミノミコト)

夫婦の二柱
天の沼矛で天上から海水をかき回し、矛を引き上げた際
矛の先から滴り落ちた塩が 能基呂島ができる
〈出典:「国生み」伊邪那岐命〉